

岩手県二戸市

所在地 岩手県二戸市福岡字川又 47(二戸市役所総合政策部地域振興課)



(アドバイザー派遣申請の背景)

「宝興し」に向けた住民主体の仕組みづくり

二戸市は、平成4年から巨木や伝統行事物産や伝統技術、山や川、住民が価値あるものと認めたもの全てを宝と位置付け、この宝を生かしたまちづくりを市民とともに進めてきた。

知名度の高いA級観光資源は有しないが、食文化等地域に根ざした宝による観光の可能性を探るため、昨年10月、全国エコツーリズム大会を3日間の日程で開催した。

この大会2日目に実施したエコツアーにおいて参加者アンケートを実施したところ、高い評価を得た点、今後改善すべき点が浮き彫りとなった。

[課題解決に向けた取組]

- ・ ガイド人材の育成
- ・ ツーリズムの核となる組織の設立
- ・ ツアーの継続催行のための旅行事業者との連携

上記3点の取組を通じて、宝の活用による産業興し「宝興し」に結びつけるため、アドバイザーの助言を得たく本事業を申請するものである。

エコツーリズムに取り組む目的	
従来の観光から脱して、新しい地域の魅力づくりを行うため	○
「自然とのふれあい」を志向する旅行者のニーズに対応するため	○
地域の活性化に貢献するため	○
地域資源の保全に対して「来訪者」の意識を高めるため	
地域資源の保全に対して「地元住民」の意識を高めるため	○
地域の将来にわたって「自然環境や文化の保全」が特に重要な点だと考えているため	
現在悪化しつつある地域の自然環境や文化の保全に役立てるため	
(その他)	

エコツーリズムの対象となる自然観光資源	
動植物	○
動植物の生息地・生育地	
地形・地質	
自然環境と密接な関連を有する風俗習慣、その他の伝統的な生活文化に係る観光資源	○
これから地域資源の洗い出しをするため、地域資源の把握ができていない	
(主な自然観光資源)	
ヒメボタル、雑穀に関わる食文化	

現在取り組んでいる・取り組もうとしているエコツアーの種類	取組中	検討中
地域に特有な野生生物とのふれあい	○	
自然の営みにふれる観察会への参加	○	
環境教育を主目的とした活動		○
農林業などの体験を通じて自然への理解を深める活動	○	
自然や文化に関する解説を受けながら地域を巡る活動	○	
地域の生活や文化を体験する活動		○
環境保全のための貢献活動		○
自然の中でゆったりとした時を過ごしながら自然の恵みを体感する活動		○
(現在取り組んでいること)		
(取組を検討していること)		

アドバイザー派遣の概要

●日時

平成 24 年 2 月 16 日（木）～17 日（金）、3 月 16 日（金）～18 日（日）

●場所

岩手県二戸市

（第 1 回二戸市役所、カシオペアメッセなにやーと、天台寺、滴生舎）

（第 2 回カシオペアメッセなにやーと、天台の湯、稲庭岳）

●エコツーリズム推進アドバイザー

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板昭夫 氏

未来政策研究所 主任研究員 比田井和子 氏

●参加者

○第 1 回 平成 24 年 2 月 16 日（木）～平成 24 年 2 月 17 日（金）

ぎばって足沢 70 の会、えのみの会、よりゃんせ金田一、岩誦坊クラブ、浄門の里づくり協議会、九戸城ボランティアガイドの会、天台寺観光ボランティアガイドの会、二戸市観光協会、いわて銀河鉄道株式会社銀河鉄道観光、二戸市商工観光課、同地域振興課、未来政策研究所 計 20 名

○第 2 回 平成 24 年 3 月 17 日（土）～平成 24 年 3 月 18 日（日）

ぎばって足沢 70 の会、えのみの会、よりゃんせ金田一、岩誦坊クラブ、浄門の里づくり協議会、二戸市観光協会、いわて銀河鉄道株式会社銀河鉄道観光、二戸市商工観光課、同地域振興課、未来政策研究所 計 16 名

●視察およびアドバイスのスケジュール・方法

○第 1 回

（1 日目）

- ・ 二戸市長とアドバイザー、JTB による東北観光博覧会に関する意見交換
- ・ 全国エコツーリズム大会について、関係者間の課題共有と解決に向けた取組方策を話し合い
- ・ 市内飲食店において、着地型観光に関する今後の展開について話し合い

（2 日目）

- ・ 二戸市の観光戦略について、推進組織の設置及びフェノロジー・カレンダーづくりへの助言
- ・ 雑穀料理づくりの米田カヨさんの農家レストランを訪問、インタビュー
- ・ 天台寺及び滴生舎を視察

○第2回

(1日目)

- ・ エコツーリズム振興について、中核組織の必要性と役割、今後5か年のロードマップについて提案をいただいた
- ・ 稲庭岳周辺の観光振興について、地元ガイドとの意見交換及び助言をいただいた

(2日目)

- ・ 稲庭岳雪遊び体験ツアーに参加してもらい、地域の魅力やガイド手法の改善等の提案をいただいた

(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツーリズム大会における課題を共有することで、次の展開に生かそうという機運が高まった
- ・ 今後の展開についてやるべき取組内容が明確化できた

●今後の期待される効果

- ・ ツーリズムの核となる組織の設立をすることとなった
- ・ ガイド人材の育成のための研修機会を設ける
- ・ 東北観光博覧会を契機に継続的なエコツアーを旅行事業者と連携して進める



(アドバイザー派遣を実施して参考になったこと、感想)

アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

●参考となった事項

二戸市観光協会は、現事務局長の退職等による組織変更に伴い、2年目以降を1人体制で行うという局面を迎えるにあたり、今後、どのようにして二戸市の観光分野を伸ばしていくか、また協会を運営していくかを考えております。

今回、真板先生が作成してくださった観光振興ロードマップ～5年計画～において、基盤づくり、着地型観光受入体制づくり、二戸ブランドの育成という3つのステップを提案して頂きました。さらに各ステップにおける仕組み、仕掛け、仕切りについて、今後やるべき事を細かく示して頂いており、観光分野において経験の浅い私にとって非常に勉強になりました。

今後、二戸市の交流人口の増加のため、観光知識及びガイド技術の向上はもちろんの事、新たなツアー商品の造成、既存プログラムのブラッシュアップ、フェノロジー・カレンダーの作成等やるべき事が多々ありますが、関係各所と連携し協力を頂きながら、いずれは観光のスペシャリストと言われるように頑張りたいと思います。

(エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス)

真板アドバイザー、比田井アドバイザーからの地域へのアドバイス

●観光振興に取り組むための中核組織の起ち上げ

全国エコツーリズム大会の成功を地域の力として真に獲得していくためには、継続と、それを可能にするしくみが必要。二戸市の観光振興、地域づくりという目標にたつならば、全市的な観光振興を担う戦略会議とでもいべき中核組織の早急な起ち上げが必要である。

この組織は行政及び観光協会、各地区でプログラムを作成・実施している市民グループ等によって構成する。事業にはツアー・プログラム開発とともに物産開発も含む。

●エコツーリズムを軸とする観光振興のためのロードマップの提案

今回、これについてのアドバイスが求められた。提案したロードマップは5年を目途に、3つの工程(体制・人材、プログラム・物産開発、マネジメント)について、3つのステップ(基盤づくり、受入体制づくり、ブランド形成)によって目標を達成するというものである。

●ガイド・スキルの向上について

全国エコツーリズム大会における評価結果の一つは、インタープリテーションの方法、工程管理、リスク管理などガイド・スキルの向上の必要性である。そこで日本エコツーリズム協会のガイド研修講座など、ガイド研修の機会を設けることを提案した。

またガイドの仲間同士で実際にコースを歩き、各自の情報や意見を交換し、全体としてコースの魅力を引き出し、伝えるインタープリテーションを工夫し合う機会をつくるなど、仲間同士の研鑽も大切。

●フェノロジー・カレンダーの作成

二戸市の宝の旬、イベントや祭り、各地区のツアーなどを、すべて盛り込んだフェノロジー・カレンダーを作成する。1年間を一覧し、エコツアー・プログラムを開発していくのに有効である。エコツアー・プログラムを作成するなかで、宝の深堀を行い、ストーリー性のあるプログラムの開発を進める。

●雑穀食を食べられる場づくりとその情報

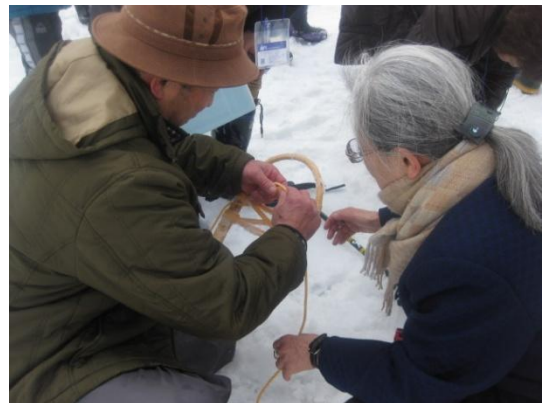
食は二戸市の観光振興において占める比重は大きい。「雑穀文化」を中心にすえているが、どこで雑穀料理を食べられるのかわからない。店のメニューの一つに加えるなどでもよいから雑穀料理を食べられる場所をつくる、あるいはその情報を入手可能にすることが必要。

●ヤマブドウ酢の試作について

物産開発として二戸市ではヤマブドウを素材とする新商品の開発が課題となっており、ヤマブドウ酢が候補にあがっていた。全国エコツーリズム大会を二戸市の前年に行った高島市には、伝統的な醸造法によって製造している400年の老舗酢醸造会社がある。真板が関わっている高島市商工会女性部ブランド研究会とも協力して試作品を製作、二戸市と高島市双方での販売をめざす。地域間の宝の交流による物産開発のモデルとなるのでは。まずはそのための資金探しの努力をする。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- これまで各地区のエコツアーや体験プログラムの作成、実施は、もっぱら地域振興課の担当であったが、今回、初めて商工観光課および観光協会の担当者が合流しての会議が行われた。「業」として、経済効果を求められる段階に達したということである。商工観光課、観光協会も、二戸市の観光振興は、その資源の特性から見てエコツーリズムが核となるとの認識を示され、二戸市の観光振興の方向については、すでに合意がなされている。早々に全市的な中核的組織を起ち上げ、既存の観光の観念に縛られることなく、宝探し20年の成果を存分に活用した観光振興を推進してほしい。「まちづくり推進委員会」というよき手本もある。
- 二戸市は20年間にわたり膨大な宝を発掘している。現在使われているのはまだ一部にすぎない。20年経ち、宝の資料集や写真データ等の存在を知らない人たちもでてきている。このようなデータベースを各地区のグループも含め全体で共有し、活用してほしい。エコツアーや体験プログラムの資源となる宝が見いだし得ると思う。
- データによって宝を知るのみでなく、次には現場に出て、地元の人と話をするなかで宝をつな



ぐストーリーもみえてくるはずである。中核組織は行動する組織であってほしい。

- 今後の二戸市の観光振興を担う人材の登場を期待したい。宝を観光資源として見だし、地域の人たちといっしょになって磨き、エコツアー・プログラムに仕立て、プロモーションから販売までもっていくことのできる人。エコツーリズム・プロデューサー、あるいはランドオペレーター、地域コーディネーター等、名称はともかく、地域の宝とツアー客のニーズをつなぐ人材。これが今求められている人材である。先のロードマップにしたがって進めていくなかで、そのような人が登場してくることを期待したい。

